

## 執筆者紹介

- 井上一之 (群馬縣立女子大學文學部教授)  
埋田重夫 (静岡大學名譽教授)  
李家橋 (早稻田大學大學院文學研究科博士課程在學)  
千野拓政 (早稻田大學文學部教授)  
生塩加詠 (二〇二二年度學部卒業)  
野田寛達 (明治大學經營學部准教授)  
平田眞一朗 (早稻田大學中國文學會會員)  
鋤田智彦 (岩手大學人文社會科學部准教授)

## 編集後記

◇ 五月、新型コロナウイルス感染症は季節性インフルエンザと同じ五類に引き下げられた。行政や大學からの要請に對應せざるを得なかった状況から、個人の判断による選擇、取り組みに任せられるようになった。

◇ 本會が年二回開催する大會も對面での実施が基本となった。ただし、大會はオンラインによるハイブリット開催を続けており、秋季大會では所用で中國に行かなければならなくなった発表者が、オンラインで発表した。この先、大會開催のあり方をどうするかは未定だが、コロナ禍によってもたらされた利便性はしつかり根付いている。

◇ 何といっても嬉しいのは、大會開催後の懇親會が復活したことだ。一時期、Zoom飲み會なるものが世間で流行り、自分でも何度か體驗したが、對面の方が絶対に盛りあがる。これだけはコロナ禍の状態に戻りたくないと思う。

◇ 秋季大會では、今年度退職される千野拓政教授、内藤正子教授、松原朗客員教授からご挨拶を頂戴した。大會の開催、雑誌の編集など、長年にわたり、本會の運営を支えてくださったことに、心より感謝申し上げます。

◇ 世界大戰の火種になりかねないウクライナ情勢は、依然として停戦の目途がたっていない。さらにイスラム組織ハマスによる奇襲攻撃から始まった、イスラエルとハマスの戦闘は激しさを増すばかりで、今も多くの一般市民の犠牲者を生んでいる。一日も早く戦闘が終結し、人々が平和な暮らしを取り戻すことを祈る。(不至)